

第 20 回議会運営委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和 2 年 12 月 3 日（木曜） 午前 9 時 30 分 開会		
	休 憩 10:09-10:13、		
	午前 11 時 5 分 閉会		
会議場所	役場 3 階 第 1 委員会室		
出席委員 氏 名	委員長 梶澤 幸治	委員 立川 美穂	
	副委員長 中村 和宏	委員 渡辺洋一郎	
	委員 正村紀美子	委員 常通 直人	
	委員 鈴木 健充		
欠席委員 氏 名			
説明等に 出席した 者の氏名			
事務局職員	事務局長 仲野 裕司	総務係長 佐藤 史彦	主査 上田 瑞紀

『会議に付した事件と会議結果など』

1 開 会

- ・委員長が開会を告げ、事務局から本日の委員会の日程を説明する。

2 議 件

(1) 協議事項

ア 12月定例会議における一般質問について

当日資料1

イ 議会だより12月号について

当日資料2

ウ 議会だより1月号の編集企画について

資料3

エ 令和3年度議会費予算案について

資料4

オ 議会ホットボイスの回答について

資料5

カ 令和2年度第1回議会モニター会議について

当日資料6

3 その他

(1) 次回委員会の開催日程（予定）について

(2) その他

2 議 件 (1) 調査事項

ア 12月定例会議における一般質問について

当日資料1

- ・中村委員：資料説明。

- ・委員長：説明の通り、一般質問は8人で、15日に5人、16日に3人として、取り進めたいが、質疑はあるか。

(質疑なし)

- ・委員長：以上で決定する。

イ 議会だより12月号について

当日資料2

- ・立川委員：資料説明。校了日は明日である。
- ・委員長：お気づきの点があれば事務局へ。

ウ 議会だより1月号の編集企画について

資料3

- ・立川委員：資料説明。校了は12月28日。発行日は1月12日。一般質問その後のコーナ0ーの題材に関して意見があれば、いただきたい。
- ・委員長：短期間の作製作業になるが、この内容で作製していく。

エ 令和3年度議会費予算案について

資料4

- ・総務係長：予算案資料説明。
- ・委員長：質疑はあるか。
- ・正村委員：議員の報酬について。今ここで設定する話ではないが、2014年に議員の活動量というところで報酬を設定していくということで今に至っているが、先の定例会議にもあったように、職員給与減額条例改正があったような、そういう流れがある中で、議会の議員の報酬についてどう考えるか、という議論をする必要があるのではないかと。減額ありきではなく、活動量の対価としての報酬であるが、社会的状況をかんがみながら、議会としての方針、議員報酬が減額になるような場合はどのような場合か、など、どこかの場面で検討する時期が来ると思うので、そうしたことも含めて検討していかなければならないのでは。
- ・委員長：議員報酬に関する検証ということであったと思う。今の議運としては、次期改選に向けた定数、報酬のあり方について、近いうちに検討をしていきたいという方向には向かっている状況。議長からも見解、あるいは諮問会議も立ち上がるのではないかと。次期改選に向けて議論をしていかなければならないと考える。

オ 議会ホットボイスの回答について

資料5

- ・事務局長：資料説明。
- ・委員長：まず正副案を示したもの。意見をいただきたいが。
- ・立川委員：発言取消しの記述がある。今回は当該の方から発言取消しがあったということであった。また特定されるような形容詞の部分は省いても良いのではないか。
- ・委員長：今の意見、このホットボイス、それに対する回答は、だれが見ても分かりやすい内容であることが必要であること。また個人が特定される場合は回答としてはよろしくないということでの案としている。
- ・常通委員：今回のホットボイス、特定されるような、はっきりとしたものはなのではないか。特定されるものではないので、一般論としての回答で良いのでは。議員を特定するものは回答しないルールであるので。
- ・鈴木委員：議会としての対応の仕方など、十分な内容である。

- ・渡辺委員：回答としてはこのままでよい。ただ、先ほどの意見については、「ベテラン議員らしい」というところを、回答のところに載せると特定されてしまうのではないかと考えている。ホットボイスを書いた方がこのように書いているものであるので、議会だよりやホームページに載せるときには工夫する必要があるのではないか
- ・正村委員：回答はこれで良い。そして、人物特定の件であるが「ベテラン」というところが年齢なのか期数なのか定かではない。年齢としてのベテランなのかということも、議会側としては真意が分からない。そういった点ではこのまま掲載すべきである。
- ・鈴木委員：このホットボイス、個人名、性別など、個人を特定するところになると削除などすべきかと思うが、この表現は送られた方の表現ということで、このままの記載で良い。
- ・立川委員：この「ベテラン」ということが、期数、年齢なのか、特定するために用いたのか定かではないが、経験豊かな議員とは受け取れない表現である。議会の対応として必要のない個人の特定を省くということは、あってもよいのでは。若い、年配ではなく、議員なのにこうした発言をしたことに対する意見であることから、あえて形容詞を載せる必要がない。
- ・委員長：それぞれ意見をいただいた。「特定」というところには結びつかないということで、今回の回答案である。広い視野に立っての回答、ホットボイス内容をそのまま掲載ということでの提案である。問題は、どの読者が見ても理解できることである。
- ・立川委員：同じことを繰り返すが、意見のよろしくないことは、議員がこうした不適切な発言をしたということであるので、この形容詞は不要であるので、省いても良い。
- ・正村委員：趣旨は言われるようなことであるが、問題は、この表現で議員が特定されるのかということであるので、このままで良いと考える。
- ・常通委員：私も同様に考える。議会としてはこのような対応になるという点を掲載しているので良い。また、指摘の点を削除することになると、回答しないということにもなるので。
- ・立川委員：これまでも特定される部分は削除しながら趣旨は理解できるというところで、回答してきた経緯がある。議員の形容詞はなくとも十分、趣旨は受け止めることができる。
- ・委員長：論点は、「ベテラン」ということが、特定につながるかどうかということである。特定には至らないのではないかとと思うし、回答の中でも、議員としてということで回答している内容であるので問題はないと考えるが、いかがか。
- ・中村委員：私は、このままかなと思う。意見をいただいた方が、録画を見て、「らしい」と感じたのであろうし、いろんな感じ方がある。おそらくこの方を受けた印象をそのまま書いたものと考え。また個人の議員のことだけでなく、議会のこととして受け止めて回答することが大事である。
- ・立川委員：議会全体への受け取りということで受け止めている。となると、あえ

て、発言した議員が容貌から特定できることは趣旨ではなく、「ある議員が」で十分ではないか。

- ・渡辺委員：特定できるかどうかということであれば、特定できないと考える。そう考えると、このまま掲載しても良いと考える。
 - ・委員長：この「ベテラン」ということでは特定には至らないということが多かったが、いかがか。
 - ・立川委員：皆さんがそう思うならというところもある。ご本人も発言取消しもされているし、そう考えると、あえて載せる必要はないのかと。
 - ・委員長：議会としては、こういう対応になっているという回答文である。
 - ・立川委員：最初の意見でも言ったが、友人への謝罪とともに処分をということであるが、今回の回答では、議会として今回の対応は読み取れないが。
 - ・委員長：皆さんと議論してきたものであるが、改めてこのような内容をもって回答することで決定したいが。
- (異議無し)
- ・委員長：この内容で回答、掲載をしていく。

カ 令和2年度第1回議会モニター会議について

当日資料6

- ・事務局長：資料説明。
 - ・委員長：まず1月中の開催に向けて準備をすることでよいか。
- (異議無し)
- ・委員長：次に、オンラインが難しく庁舎に来られる方について、オンラインと、庁舎に来られる方と、同時進行で会議を行うのか、あるいは別々の内容で進めるような考え方もあろう。そのあたりを本日は決めていきたい。詳細は今後詰めて、年内にはしっかりとした骨格を作っていきたいと考えるが。
 - ・委員長：オンライン環境の無い方が、庁舎に来て、オンラインに加わってもらえるのか、あるいは来庁者だけで意見交換を行うということもあろうが。
 - ・常通委員：同時進行で行ってはどうか。オンラインが出来ないという方が庁舎に来られるので、体験してもらうことで、次の「できる」に繋がることも考えられる。できれば同じ時間帯で、進めるのがよい。
 - ・鈴木委員：日程面でいうと1月中がベストと思う、中身は、混合型というか、できる方とできない方の数、できる方が多く、役場に来られる方が3人ということである。1人、できないという方がいるが、全員が参加できるようなことを模索することは必要であるが、リアル+オンラインということが一番良い。
 - ・立川委員：常通委員同様、来庁してもオンラインで行うようなことが良い。
 - ・正村委員：完全オンラインで進めてはどうか。リアル+オンラインという話もあったので、そのあたりを整理が必要。完全オンラインなら、サポート体制をどうするかということが重要になる。4人の方へのサポート体制をどう作っていくか、具体的な議論が必要である。
 - ・委員長：意見からはオンラインの混在型ということである。リアルは庁舎に来られてオンラインで行うことで進めていきたい、改めて決定していきたい。また、そう

なると課題も出てくる。正村委員が言われるサポート体制である。機器がないなどの状況であれば、タブレットなどを用意して行うということにもなるが、そういった環境を作っていくことにする、ということだとどめたいが。

・正村委員：サポート体制の具体案は今後ということであるが、その体制の状況を創れることが前提ということで議論を進めるということか。

・委員長：当然、その方向になる。新庁舎での実施ということになる。議員のタブレットを活用、あるいは予備タブレットを活用することも考えられる。また案を作って、協議をしていきたいと考える。

(異議無し)

・委員長：オンラインが出来る方は13人。多くは自宅等でできることになるが、調整をしっかりと当日できるような準備をしていくことになるが、課題などがあれば提言いただきたい。

・中村委員：課題ではないが、「もうはつきりしませんか」ということ。本来は11月に開催予定でありリアルで行う予定だった。ただ、今のコロナの状況が改善して11月上旬のような状況になっても、今回はオンラインでやってみませんか、ということである。調査の結果13人もできる環境にあることから、一度やってみませんか、ということを進めてはどうか。予定どおり、オンライン実施に向けて我々も準備を進めていくことが必要ではないか。

・渡辺委員：接続に不安がある方も一定程度いる。予め接続テストを一定程度設けて、本番に繋げるように、接続テストの日程も確保して行うことで。

・委員長：今後、事務局とともに、参加されるモニターさんとしっかりと調整していきたい。初めてのオンラインによる会議になるが、モニターからも対話の機会を設けるようにと言う声もあることから、しっかりと詰めていきたい。また、開催は1月中の開催であるが、具体的な日程を決めておかなければならない。開催日がある程度決めておきたいが、提案があれば。

・委員長：1月18日の週、あるいは25日の週になろうが、20日か21日あたりが良いのかなと考える。このあたりに方向性を決めていきたいが。

・常通委員：日程は、事務局と正副で、今のあたりで調整していただければと。

3 その他

(1) 次回の委員会開催日程について

- ・12月11日（金曜）午前9時30分

(2) その他

① 議会議員研修について

その他資料1

・事務局長：目的志向の課題解決手法を学ぶ「ワークショップ 2030SDGs」の研修に関して、実施の可否の判断時期を協議する。以降。資料説明。

・委員長：難しい判断になろうが、いつまでに実施可否を判断していくか。

・中村委員：実施が2月下旬であるので、一か月前くらいの判断が適当ではないか。オンラインでの実施ではないろうし。北海道・十勝の感染状況を考えると、なかなか

か集まっての研修というのは厳しいかもしれない。状況によっては中止しかないのかなど。

- ・正村委員：今回開催するとしたら、議会だよりも掲載しなくてはならないし、個別に案内もしていかななくてはならない。そうすると2月の議会だよりには掲載するとなると、1月中には確定となることから、なるべく早くしないと猶予はない。そうすると年内に決定をする必要があると考える。
- ・委員長：モニターさんなどへの案内などもあり、議会だよりもに掲載する、しないということも今後の課題になるが、2月23日の開催に向けていくことを考えると、年内の決断は厳しいのではないか。キャンセル料の特例措置もあることであるが、講師もコロナの状況下での来町も懸念されているのではないか。そうすると、1月末を一つの基準としてはどうか。
- ・常通委員：今回の研修、やるかやらないかということであるので、ギリギリまで引っ張っても良いのではないか。相手方と協議をしながら判断していても良い。
- ・立川委員：航空会社の特例措置もあり費用面の負担は少し減った。1月末まで状況を見ても良いのではないか。
- ・正村委員：議会だよりもに掲載していく必要がある。議員研修会であるので。また1月末となると、開催の可否の基準を明確にしておかないと、まだ判断に迷うことがある。その判断をどうするかが問題。今回のフォーラムについては、延期ではなく、今年度は中止すべきと考えている。ワークショップであるということも一つある。コロナ拡大の時期にあって、そうしたフォーラムに参加して学んでいこうという意味が芽生えて有意義なものになるのかということに疑問を持つ。勇氣をもって中止をして、新ためて時期がきたら開催の検討をするということ。
- ・委員長：議会費の補正もしているところであるが、現時点では実施可能であるということで準備を進めてきた。いかがか。
- ・正村委員：12月初日の補正で計上している。状況は刻々と変わってきていることが大きい。補正予算計上時期と今では感染者数も拡大しているし十勝の状況も変わってきている。振り出しに戻るということではなく、今まさにどうするかという決断をするべき。慎重な判断をすべきであるので、建設的な議論ができればと。
- ・立川委員：こういう状況であるからこそ、感染防止に万全な対策を打って、少しでも町民と意見を交わす場を確保していくことが必要である。中止の場合の負担も軽減されている。開催に向けて準備を進めていくことで良い。
- ・渡辺委員：この内容がワークショップ形式ということは懸念している。こうした時期にワークショップ形式で、感染防止対策を取れるのかということも懸念するが、開催に向けて準備をとということで議論してきたが、現時点は町内施設等でも感染者が出ている状況であるが、1月末までの中で判断していくことで良い。
- ・鈴木委員：開催に向けた準備をしていくのは当然していく。ただ、コロナがどうなるか分からない中で、中止の判断をきちんとしていかななくてはならない。拡大の状況が続くのであれば、1月末の判断では少し遅い。せめて1月中旬にははっきりしたいところ。町民への周知などもある。また、開催に向けて準備をしていくのは良いが、中止と言う決断も重要。その考え方、判断基準をきちんと考えておいた

方が良い。

- 中村委員：中止の判断、また中止をした場合は次年度へということで、今年度の延期はない。鈴木委員言われたように1月中旬というところまでは様子を見たい。ただ町内での感染拡大によっては1月中旬まで待つ必要はないかもしれないが、ある程度、状況が良い方向に向かっていくのであれば、1月中旬で判断を。
- 立川委員：開催に向けた準備を進める。中止に向けた基準をとすることは、理解するところ。例えば町内に感染者がいる場合はどうする、など、しっかりとした条件は明確にしておいた方が判断しやすい。これまでも悪天候による中止の基準もあったことから1月中で十分ではないか。
- 委員長：現時点では実施に向けて準備をしていくということ、中止の判断基準を決めるというところで、1月20日あたりを時期としてはどうか。また、ワークショップ、カードゲームというところで、講師が一番危惧していることであり、しっかりとした感染防止策を取って行えるものとしているところ。実施に向けて準備を進め、1月20日をめどに判断をしていくということにしたい。

以上をもって委員会を閉会する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	0名	議員	0名	合計	0名
------	-----	----	-------	----	----	----	----	----

令和2年12月3日

議会運営委員会委員長 梶澤 幸治